

老いと文化

2007年3月1・2日 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎2階大会議室

【協力 ◆ DMC プロジェクト ポートフォリオ BUTOH この研究会の開催には慶應義塾大学学事振興資金の援助を受けています】

3月1日(木)

老い—主として上演芸術の視点から

日本演劇/日本舞踊は「老い」を排除せずむしろ「まことの花」として尊重する稀な伝統を持っています。この美意識は、60年代以降、土方巽、大野一雄を中心とする舞踏において再確認されたところでした。

一日目のワークショップでは、DMCプロジェクト「ポートフォリオ BUTOH」の協力を得つつ、日本演劇、西洋リアリズム演劇、舞踏論の専門家を招いて、老いと上演芸術を考えるワークショップを行います。

13:00-13:15 開会(趣旨説明)

13:15-14:15 神山彰【明治大学教授】

キーワード◆歌舞伎、近代劇、役柄

14:15-15:15 國吉和子【早稲田大学演劇博物館客員教授】

キーワード◆暗黒舞踏、土方巽、衰弱体

15:15-15:30 コーヒー・ブレイク

15:30-16:30 小池寿子【國學院大学教授】

キーワード◆運命、老い その善と悪、老いとリアリズム

16:30-17:30 永田靖【大阪大学教授】

キーワード◆演劇、リアリズム、スタニスラフスキ

17:30-18:00 森下隆【慶應義塾大学アートセンター訪問研究員】

キーワード◆アヴァンギャルド、戦後民主主義、老婆

18:00-18:45 小菅隼人【慶應義塾大学教授】

まとめのセッション

3月2日(金)

老い—主として身体医文化の視点から

身体医文化論研究会は、かつて『腐敗と再生—身体医文論 III』として、「接続・重層・逆転」をキーワードに、腐敗と再生を断絶した概念とすることに異を唱えました。

今回は、さらに具体的に「老い」をテーマにして、再建術、皮膚論、老年学なども視野に入れつつ、老いと再生の問題を考えたいと思います。この日は分野を問わずテーマティックに身体医文化の視点から「老い」を論じたいと思います。

10:00-11:00 原田範行【杏林大学教授】

キーワード◆老いの言語表現、不死の国、介護の英文学

11:00-12:00 傳田光洋

【資生堂ライフ・サイエンス研究センター主任研究員】

キーワード◆表皮、境界、再生

12:00-13:30 ランチ

13:30-14:30 小菅信子【山梨学院大学教授】

キーワード◆戦傷、再建、和解

14:30-15:30 成島美弥【ブロック大学助教授(カナダ)】

キーワード◆喪失、怒り、発見

15:30-16:15 鈴木晃仁【慶應義塾大学教授】

まとめのセッション

Info

小菅隼人【慶應義塾大学理工学部教授】 慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎722研究室
kanto@mua.biglobe.ne.jp or hkosuge@hc.cc.keio.ac.jp